

# ね、この本よんだ？

2014. 4~2015. 3



図書館で毎月発行している『としょかん通信』でご案内した「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた全部で60冊のブックガイドとなっており、この一年、職員が手にとって選んだおすすめの本がリストアップされています。

2008年度から始めて第7集になります。紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても、素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



区分	NDC分類	内容	タイトル		
絵本	913	日本の作品	『ベルナルさんのぼうし』		
			『ななちゃんのおかたづけ』		
			『しろおうさまとくろおうさま』		
			『どろんどろんにやあ』		
			『そうちゃんはおこってるんだもん』		
			『じゅんばんこ』		
			『じごくのさたもうでしだい』		
			『かあ〜っこいい!』		
			『うそだあ!』		
			『ふゆのむしとり?!』		
			『キャンディーがとけるまで』		
			『ぼくがすきなこと!』		
			933	海外の作品	『よくばりな カササギ』
			933		『あのひのクジラ』
933	『あっ、ひっかかった』				
933	『大きくなるってこんなこと!』				
943	『ヨハンナの電車のたび』				
933	『クジラにあいたいときは』				
953	『てをあげろ!』				
933	『クレヨンからのおねがい1』				
933	『ほんをひらいて』				
943	『スノーベアとであったひ』				
933	『やっぱりノミたくん』				
933	『いちにちでいいから』				
読みもの	913	日本の作品	『あたらしい子がきて』		
			『ブルースマンと小学生』		
			『ノンキーとホンキーのカレーやさん』		
			『明日は海からやってくる』		
			『手作り小路のなかまたち』		
			『ブルーとオレンジ』		
			『3匹のお医者さん』		
			『空へ』		
			『いろはのあした』		
			『なみだの穴』		
			『歴史探偵アン&リック 里美家の宝をさがせ!』		
			『魔女バジルと魔法のつえ』		
			933.7	海外の作品	『さよならのドライブ』
			933.7		『ルーシー変奏曲』
963	『ふたりは世界一!』				
933.7	『海をわたったビスク・ドール』				
933.7	『サマセット四姉妹の大冒険』				
933.7	『ゆうれい作家はおおいそがし1 オンボロ屋敷へようこそ』				
933.7	『希望の海へ』				
943	『クララ先生、さようなら』				
933.7	『スパイスクール』				
943.7	『落っこちた!』				
933.7	『おしゃれ教室』				
943.6	『ジゼル〜クラシックバレエおひめさま物語〜』				
テーマ本	764 489 519 486 704 471 645 465 590 482 626 596		『名曲を聴きながら旅するオーケストラの絵本』		
			『うさぎじまのうさぎちゃん』		
			『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』		
			『イヤムシずかん』		
			『パパママおしえてアートミステリー13話』		
			『ずかん たね』		
			『いのちの花』		
			『ちいさなちいさな』		
			『おてつだいの絵本』		
			『日本にしかない生き物図鑑』		
			『どうしてトウモロコシにはひげがあるの?』		
			『ひらめき! 食べもの加工おもしろ実験アイデアブック』		



### 『じごくのさたもうでしだい』

もとしたいずみ／作

竹内通雅／絵

ひかりのくに



おさななじみの三人は同じ日に死に、あの世へわたる船の上で再会しました。久しぶりに会って、大はしゃぎしたのが原因で、「うるさい！」と、えんまにじごくへ追いやられてしまいます。お湯がにえたぎったじごくのかまに、いけばなで使う剣山のよような針の山、そして、こわいえんまが待つじごく、三人はどうやって切り抜けるのでしょうか？

### 『かあ〜っこいい！』

赤川明／作・絵

フレーベル館



にちようびなのに、おとうさんは朝早くから出かけていきます。なんだかようすが変だなあ〜とっていると、おかあさんが、それからお姉ちゃんに犬のペスまで出かけてしまいます。なんとぼくの家族は、せいぎのヒーローだったのです。でも、一人になってしまったぼくはさびしくて・・・、かっこいいヒーロー一家がおくるとびきりゆかいなお話です。

### 『うそだあ！』

サトシン／著

山村浩二／絵

文溪堂



男の子が自慢げに話したのは、「うそだあ！」と耳をうたがう体験談。おなかかすいてバナナをむいたらチョコバナナだった。水道の蛇口からはオレンジジュースがでるんだ。コーラをいっぱい飲んだら宇宙に飛んでいけた。男の子の体験はどんどんふくらんでいきます。奇想天外でワクワクする「うそ」がたくさんつまった1冊です。

### 『ふゆのむしとり?!』

はたこうしろう／作・絵

奥山英治／作

ほるぷ出版



冬のある日、お兄ちゃんは虫とりあみを持ってどこかに出かけるようです。「冬に虫とりなんてできないよ」。弟はそう思いながらもお兄ちゃんの後をつけて行きます。すると、葉っぱの裏や腐った木の幹の中には虫たちがいっぱいいます。次々と見つかる虫たちに兄弟は大喜び！この絵本を読んだ後、思わず外に飛び出して行きたくなる一冊です。

### 『キャンディーが とけるまで』

もとしたいづみ／作

石井聖岳／絵

集英社



おっくんと妹のあっこちゃんは、スーパーでお母さんから「キャンディー」を買ってもらいました。それは口に入れて願い事を言うとすぐに叶う「魔法のキャンディー」でした。でも、キャンディーが溶けてしまうと、魔法も解けてしまうのです。さて二人はキャンディーにどんな願い事をしたのでしょつか？

### 『ぼくが好きなこと！』

中川ひろたか／作

中村浩二／絵

ナッピーオウル社



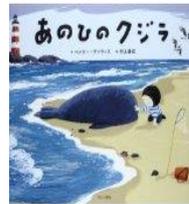
あなたの好きなことって何ですか？「ぼくが好きなこと。むらさきいろにみえるしゅんかんのあさやけ」。これは、こんなふうに僕の好きなことがいっぱい詰まった絵本です。不思議なこと、おかしいこと、そこから好きが広がって色々なことにつながっていくのかもしれない。主人公の僕と一緒に、好きなことを集めてみませんか？

『よくばりな カササギ』  
I・C・スプリングマン／文  
ブライアン・リース／絵  
どい あきふみ／訳  
徳間書店



なんにも持たないカササギが、友だちのネズミからビー玉をひとつもらいます。ほかにもほしくなったカササギは、いろんなものをたくさん集めはじめました。けれど、その重さで、とうとう巣があった木の枝がおれてしまいます。ほしくなるものはいっぱいあるけれど、本当に大切なものは何かを、考えさせられる絵本です。

『あのひのクジラ』  
ベンジー・デイヴィス／作  
村上康成／訳  
ブロンズ新社



ノイはおとうさんと6ひきのねことうみにとっても近い家にくらしています。ある夜とても大きなあらしがきたので、次の日の朝ノイはうみべに何かおもしろいものがないか、たんげんに行きました。すると、遠くのはまべに小さなクジラがうちあげられていてびっくり！ノイは弱っているクジラをたすけようと、おとうさんにないしょでクジラを家につれてかえりますが・・・。

『あっ、ひっかかった』  
オリヴァー・シェファーズ／  
作・絵  
青山南／訳  
徳間書店



はじめは、フロイドのたこが木にひっかかったこと。フロイドはたこを落とすため、いろいろなものを木に投げた。くつに、くじらに、消防車に、消防士までも。どんなに投げても、どれも木にひっかかってしまう。最後に投げたのこぎりで、やっとたこは落ちてきた。たこで楽しく遊んだフロイド、でも何か忘れていませんか？

『大きくなるってこんなこと！』  
ルース・クラウス／文  
ヘレン・オクセンバリー／絵  
山口文生／訳  
評論社



「ぼくは大きくなるのかな？」はるがきて、草木がそだっていくのをみた小さなぼうやが、かあさんにたずねます。季節がめぐり、小さかったヒヨコやコイヌは大きくなりました。それにくらべてなんだか小さいままに見えたぼうやも、少しずつ自分が大きくなっていくことを知ります。成長することの喜びをえがいたおはなしです。

『ヨハンナの電車のたび』  
カトリーヌ・シェラー／作  
松永美穂／訳  
西村書店



ひとりの絵本作家が、電車に乗っているブタを描いています。するとそのブタがとつぜん話しかけてきました。「ねえねえ、絵かきさん、この電車はどこへいくの？」「からだに模様がほしいな」「すてきなシャツを着せて」「だれか遊びに来ないの」ブタのヨハンナの楽しい注文を受けて、作家は次々描き足していきます。最後にはどんな絵本になるのでしょうか。

『クジラにあいたいときは』  
ジュリー・フォリアーノ／作  
エリン・E・ステッド／絵  
金原瑞人／訳  
講談社



主人公はクジラにあいたい男の子。どうやったらクジラにあえるのか、クジラにあうためにはどうすればいいのかよく知っているけれど、その道のりはとても長くてなかなかクジラにはあえません。でも、あきらめずにまってまって、ずっとまってみると…。読んでいると誰かにあいたくなる一冊です。

『てをあげろ!』  
カテリーナ・ヴァルクス／作  
ふしみみさお／訳  
文研出版



ハムスターのピリーのパパは有名なギャングです。可愛いものしらすのパパの心配事は息子のピリーが優しすぎる事。ピリーはギャングになる練習のため、けんじゅうを持って出かけます。でもピリーはおどしたはずのミミズやネズミと友だちになり、キツネにつかまってしまいます。キツネから友だちを助けるためにピリーが取った行動とは？

『クレヨンからのおねがい!』  
ドリュウ・ディウォルト／文  
オリヴァー・ジェファーズ／絵  
木坂涼／訳  
ほるぷ出版



ある日ケビンが絵を描こうとクレヨンを出すと、箱の上に手紙がおいてありました。ふしぎに思って開いてみると、それは12色のクレヨンたちからの手紙でした。個性あふれるユニークなクレヨンたちからの手紙には、もっと休みたいとか、使ってほしいとか、それぞれの色のクレヨンたちの気持ちが書いてあります。さて、その手紙を読んだケビンが描いた絵は、いったいどんな素敵な絵になったのでしょうか？

『ほんをひらいて』  
トニ・モリスン&  
スレイド・モリスン／作  
シャドラ・ストリックランド／絵  
さくま ゆみこ／訳  
ほるぷ出版



本をひらくと知らない世界が見えてくる。暗い気持ちが小さくしぼんでいく。お天気の悪い日、女の子のルイーズが一人で図書館に出かけると、たくさん本が待っていました。ルイーズはページをめくり、本の世界でのびのびと冒険していきます。ノーベル文学賞作家トニ・モリスン親子が、本を読む喜びを伝えるために手掛けた絵本です。

『スノーベアとであったひ』  
サイド／作  
マリーネ・ルーティン／絵  
はたさわゆうこ／訳  
すずき出版



ゆきいちごを摘みに行ったマリーネは、森の中で赤い冷蔵庫を見つけます。不思議に思いながらも扉を開けてみると、スノーベアと名乗る大きなシロクマが現れて…。どうやら好物を探しているうちに、道に迷ってしまっただけです。スノーベアが風によって氷の国へ帰る前に、ゆきいちごを摘んで食べたり、空を飛んだりと一緒に時間を楽しみます。寒い季節に心が温かくなるお話です。

『やっぱりノミタくん』  
ヘレン・スティーブス／作  
せなあいこ／訳  
評論社



名前も家もない、持っているのはたくさんノミだけ。公園にいる仲間のイヌ達は人間をつれていきます。「僕も人間がほしいなあ」と思っていたある日、小さな男の子ボブと知り合います。毎日遊んで二人は仲良しに。でもボブは引越すことになってしまい…。ノミだらけの犬のノミタくんが、人間という家族を見つけるまでの心温まるお話です。

『いちにちでいいから』  
ローラ・ルーク／作  
マルク・ブタヴァン／絵  
福本友美子／訳  
フレーベル館



「一日でいいからなってみなな…。」いつもの自分とは違うものになって、やってみようかな。たとえば、チョウチョウになって空を飛んだりクジラになってスイスイ泳いだり。だけど、どんなに素敵なものでもそれは1日だけがいいの。その他の日は、やっぱり「これ」がいいからね。

『あたらしい子がきて』

岩瀬成子／作  
上路ナオ子／絵  
岩崎書店



みきちゃんは、お父さんとお母さんと妹のるいちゃんの4人家族。今日からはそこへ、弟のけんちゃんがかかります。するとその日から、お母さんたちはけんちゃんのことばかりで、お姉ちゃんたちは面白くありません。これは、戸惑いながらも、ゆっくりと新しい家族を受け入れていく2人のお姉ちゃんのおはなしです。

『ブルースマンと小学生』

こうだゆうこ／作  
スカイエマ／絵  
学研教育出版



鉄平は、野球が大好きな6年生。でも今は、野球をする場所も、相手も失って、毎日何かにイライラしている。何に腹が立つのか分からない。学校も家も居心地が悪い。そんな時、公園で歌っているトンガラシの兄ちゃんとお会いした。もがき苦しむ鉄平の心のうちに変化が芽生える。思春期にさしかかった少年の心の成長物語。

『ノンキーとホンキーのカレーやさん』

村上しいこ／作  
こばようこ／絵  
佼成出版社



ノンキーとホンキーは、二人でカレーやさんをはじめることにしました。でも明日がお店の開店日だというのに、ノンキーはのんびりしてばかり。それをみたホンキーは、ノンキーにカレーに必要な材料の買いものをお願いしますが、買いものの途中で市場の人たちからある頼みごとをされています。カレーやさんは無事に開店できるのでしょうか。

『明日は海からやってくる』

杉本りえ／作  
スカイエマ／絵  
ポプラ社



竜太は離島で生まれ育った中学生。家業の漁師を継ぐと決めている。生徒が二人だけだった中学の分校に、都会から灯子が転入してきた。竜太の兄の航平もリストラで車の整備士を辞め、島に戻って漁師になった。まわりの人たちに関わるうちに竜太の心にも変化が。親しい人の死を経験し、成長していく、少年と少女の姿を描いた作品です。

『手作り小路のなかまたち』

新藤悦子／著  
河村怜／絵  
講談社



“手作り小路”と呼ばれる路地は、手作りのものをあつかうお店が集まる小さな袋小路。お客さんは、手作り小路にしかないものを求めてやってきます。ある人は“しあわせに見える手さげ袋”、またある人は“よくばりな麦わらぼうし”といったものを。豆太郎さんのおいしそうな料理と一緒に、それらに手作り小路のみんながどう応えていくのか、この本を読んでみませんか？

『ブルーとオレンジ』

福田隆浩／作  
講談社



「ぼくはピラミッドの下のあたりにいる人間なんだよね」。ブルーと呼ばれる小5の少年は、クラスの上下関係の中で日々いじめに耐えていました。同じクラスの少女も、女子リーダーが主導するいじめに巻き込まれ悩んでいました。この状況を変えるために、自分が使える“武器”は何だろう？二人はついにいじめと戦う作戦を立てます。作戦は果たして成功するのでしょうか。

### 『3匹のお医者さん』

杉山亮／作  
大矢正和／絵  
佼成出版社



主人公のマリさんはピーナッツ好きの元気なおばあさんです。でも最近では耳の調子が悪く、電話をしていても相手の声が聞こえづらいよう。そんなある日、マリさんが森に散歩に出かけるとウサギ医院という看板を見つけます。その先にイタチ医院、リス医院の看板もあります。ためしに森の病院に相談しようと思ってみましたが…。

### 『空へ』

いとうみく／作  
小峰書房



父ちゃんが死んだ。生活が一変した。母ちゃんはオレたちのため必死で働いている。オレは中学校に、妹は小学校に入学した。困ったとき隣の部屋のお姉さんが助けてくれた。一見わからなかったが、実は友人たちも何か問題を抱えている。父ちゃんが好きだったおみこしをオレは担いだ。そして空へ空へと付きあげた。少年の成長のお話。

### 『いろはのあした』

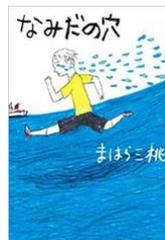
魚住直子／作  
北見葉胡／絵  
あかね書房



いろはは、ちょっと気が強い三年生のお姉ちゃん。反対に弟のにはほは、おっとりした一年生。けんかしたり、見栄をはったり、悩んだり、友達や弟と過ごす日々は、いろはにちょっとした変化や発見を与えながら、少しずつ成長させていきます。このお話は、そんないろはの毎日をしていねいに描いた、ほんのり心温まるお話です。

### 『なみだの穴』

まはら三桃／著  
小峰書店



父親の転勤で、突然親友と別れることになった光太。レスリングの試合のために、甘いものを我慢している真矢。同じ野球チームの兄といつも比較される健。小さな我慢を重ねる子どもたちの前に、ある日突然不思議な穴が。その穴をのぞいてみると、涙が次から次にあふれてきて・・・。読み進めていくほど晴れ晴れとした気持ちになる、六つの涙のお話です。

### 『歴史探偵アン＆リック 里美家の宝をさがせ！』

小森香折／作  
染谷みのる／絵  
偕成社



ファッションが大好きな杏珠は、お母さんと一緒に千葉県の上里美家という屋敷に引っ越すことになりました。でもその屋敷には絶対に破ってはいけない家訓が3つ存在し、屋敷のどこかには家宝まで眠っているのです。杏珠は家訓と家宝の謎を解こうと、歴史に詳しいクラスメイトの陸と共に、里美家の謎に迫ります！

### 『魔女バジルと魔法のつえ』

茂市久美子／作  
よしざわけいこ／絵  
講談社



見習い魔女のバジルは寝坊して、5人の大魔女たちの弟子になる試験に間に合いませんでした。次の試験は7年後。がっかりするバジルに、山の上にいる大魔女マジョラムの弟子になるチャンスが与えられました。弟子になる条件は流れ星を捕まえること。ほつぎに乗ることが苦手なバジルは、流れ星に追いつき捕まえることが出来るのでしょうか？

『さよならのドライブ』  
ロディ・ドイル／作  
こだまともこ／訳  
こがしわかおり／絵  
フレーベル館



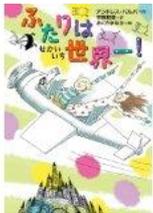
12歳のメアリーは出会った女性タンジーに懐かしさを感じる。メアリーの母スカーレットに似たタンジーは、病気の祖母エマーを励まそうと現れた幽霊だった。25歳で亡くなったタンジーは、まだ3歳だった娘エマーが心配で成仏できなかったのだ。メアリーは母の運転する車で、祖母・曾祖母の幽霊と奇妙なドライブに出発する。

『ルーシー変奏曲』  
サラ・ザール／著  
西本かおる／訳  
小学館



幼いころからピアニストとして数々の栄光を手にしてきたルーシーは、大事なコンクールで舞台から立ち去ってしまいます。ピアノをやめ、そしてまたピアノに向かう中で様々な物にふれながら、悩み、成長していくルーシー。新しく出会ったものは、決していいものばかりじゃないけれど、それら全てを抱えて彼女は新しい門を開きます。一人の少女の新たな旅立ちの物語。

『ふたりは世界ー！』  
アンドレス・バルバ／著  
宇野和美／訳  
偕成社



小さな男の子フワニートと大きな女の子ペロニカは、早食いやお風呂もぐりなどの新記録をつくる名人です。ある日、謎の世界記録男が、自分以上の新記録をうちたてる子どもを募集していることを知り、二人は挑戦することに。30日という期限の中、世界ーの新記録を作る冒険が始まります。はたして二人は世界ーになれるのでしょうか。

『海をわたったビスク・ドール』  
ジョン・ポルプ／作  
かとうあさこ／訳  
石川のぞみ／絵  
国土社



ローズとリラの姉妹は、おとうさん達の仕事の都合でおばあちゃんの家で一年間暮らすことになりました。でも、このおばあちゃんがなんだか変わり者で、家の中には、「魔女の小部屋」という立ち入り禁止の部屋もあります。何かあるのか聞いても教えてくれないので、ある晩二人はこっそり「魔女の小部屋」に忍び込みますが・・・

『サマセット四姉妹の大冒険』  
レズリー・M・M・ブルーム／作  
尾高薫／訳  
中島梨絵／絵  
ぼるぷ出版



コーネリアは難しい言葉でまわりの人をけむに巻き、他人との壁を作っていた。ある日、お隣に魅力的な作家・バージニアが引っ越してきた。初めて人に心を開くことができたコーネリアは、バージニアのお話・サマセット姉妹の冒険の世界に引き込まれ、二人で楽しい時間を共有するが…。世代を超えた友情と、少女の成長のお話。

『ゆうれい作家はおおいそがし1  
オンボロ屋敷へようこそ』  
ケイト・クライス／文  
M・サラ・クライス／絵  
宮坂宏美／訳  
ぼるぷ出版



有名な児童文学作家ムッツリーは、新作を書くために夏のあいた家を借りることに。ところが借りたオンボロ屋敷には、少年シーモアと猫の影丸、それにどうやらオリブという名のゆうれいが住んでいるようで…。心を閉ざしてしまった作家が大事にしたいと思える人たちと出会い、もう一度やり直そうとする、新しいはじまりの物語。



『名曲を聴きながら旅する  
オーケストラの絵本』  
ロバート・レヴァイン／文  
メレディス・ハミルトン／絵  
たかはしけい／訳  
プレジデント社



みなさんはクラシック音楽を聴いたことはありますか？実は私たちの生活の中には、クラシック音楽を耳にする機会がたくさんあります。テレビや映画の興奮を高めるために、クラシック音楽はよく使われます。有名な曲がどんな風に作られどのように演奏されているのか、この絵本をきっかけにクラシック音楽に触れてみてはいかがでしょうか。

『うさぎじまのうさぎちゃん』  
ゆうきえつこ／ぶん  
福田幸広／しゃしん  
小学館



「うさぎじま」と呼ばれる島のことを聞いたことがありますか？広島県の「大久野島」はその名の通り、約800匹のうさぎが暮している島で、人は住んでいません。宿泊施設が1軒と、ゆっくり走るバスが1台あるだけ。この島で撮影されたうさぎ親子の写真絵本です。子うさぎのかわいらしさに顔がほころんでしまいますよ。

『世界でいちばん貧しい  
大統領のスピーチ』  
くさばよしみ／編  
中川学／絵  
汐文社



南米の国ウルグアイのムヒカ大統領は、世界でいちばん貧しい大統領です。この本では、2012年に行われた環境について話し合う国際会議での彼のスピーチを紹介しています。豊かさって何だろう？幸せってどんなことを言うのだろうか？彼の話を通して、これからの自分たちの未来について、みんなも一緒に考えてみませんか。

『イヤムシずかん』  
盛口 満／文と絵  
ハッピーオウル社



「虫なんてイヤ！くさいし、刺すし、毛が生えてる！」・・・そんな嫌われ者の虫たちですが、実は生き抜くための様々な事情があったのです。ハチの毒針の歴史やゴキブリが飛んでくる理由、毛虫の毛の役割など「イヤムシ」たちの様々な秘密をクイズとともに楽しく紹介します。「イヤムシ」がちょっぴりかわいく見えてくる1冊です。

『パパママおしえて  
アートミステリー13話』  
アンジェラ・ヴェンツェル／著  
野崎武夫／翻訳  
十日本語版編集  
辰巳出版



みなさんアートは好きですか？この本の中では昔の作品から現代のものまで、全部で13の美術作品が紹介されています。今までたくさんの人たちがこの美術作品のなぞを解き明かそうと取り組みましたが、まだなぞは解けていません。では次はみなさんの番です。年表や作家の生涯などから、あなたも作品のなぞについて考えてみませんか。

『ずかん たね』  
近田文弘／著  
久保秀一／写真  
技術評論社



ふだん何気なく目にする植物のたね。でもたねってなに？中はどうなっているの？どんな色や形のたねがあるの？こんな質問に答えられる人は少ないのではないのでしょうか。この本には様々なたねの写真や説明が紹介されています。おもしろい形や、きれいな色のたねの写真を眺めるだけでも楽しいですよ。

『いのちの花』  
向井愛実／著  
WEVE出版



「殺処分された動物の骨を、土にかえしてあげたい。形は変わってしまっても、命として続いてくれますように」。ゴミとして捨てられる骨を肥料として土に混ぜ、花を育ててつなげていく。これは、人間の身勝手な理由で殺処分されている犬や猫たちをなんとかして救いたいと立ち上がった高校生たちのお話です。大切な命について何ができるのか、一緒に考えてみませんか？

『ちいさなちいさな』  
ニコラ・デイビス／文  
エミリー・サットン／絵  
越智典子／訳  
ゴブリン書房



私たちの身近にいる、小さな小さな微生物の世界。目には見えませんが、一滴の海水に含まれる微生物の数は、なんとニューヨークの人口の2倍以上！微生物の大きさ、数、形、自然界での役割について、ユーモラスに紹介した絵本です。色とりどりに描かれた微生物は、ながめているだけでもワクワクしてきます。科学の世界を楽しく実感できる1冊です。

『おてつだいの絵本』  
辰巳渚／文  
すみもとななみ／絵  
金の星社



お兄さんやお姉さんになり、自分のことは自分でできるようになると周囲が見えてきます。でも、どんな風に何をしたらいいのかわからないこともあると思います。この絵本では、洗濯物のたたみ方や野菜の皮むきなど、色々なお手伝いの仕方が分かりやすく描かれています。読むと家族と一緒にお手伝いがしたくなる一冊です。

『日本にしかない  
生き物図鑑』  
今泉忠明／監修  
PHP研究所



日本にしかない生き物（日本固有種）の代表的な物が、写真と共に紹介されています。第1部では固有種が多い日本の野生動物などが、第2部ではそれぞれの生態や特徴などが説明されています。さて、国交友好のシンボルとして、日本から外国に贈られることの多い生き物は何でしょう？答えは本の21ページを見てください。

『どうしてトウモロコシ  
にはひげがあるの？』  
藤田智／著  
少年写真新聞社



皆さんは野菜についてどれくらい知っていますか？緑と白のアスパラガスは何が違うの？メロンのあみ目はどうしてできるの？どうしてトウモロコシにはひげがあるの？この本はそんな「やさしい」の様々な特徴や意外な性質、びっくりするような知識について書かれた一冊です。野菜って、とっても魅力的なんですよ！

『ひらめき！食べもの加工  
おもしろ実験アイデアブック』  
岡本靖史／著  
農山漁村文化協会



サイダー・チーズ・かまぼこなど、普段なかなか作ることのない加工食品。本書は親子で楽しく加工食品作りに挑戦できる1冊です。作り方の解説とともに、食品素材の性質や発酵・糖化の仕組みも写真入りで詳しく紹介しているので、自然科学への興味が広がります。長年親子料理を実践してきた著者による「味の感想」や「子ども興奮度」といった指標も必見です。